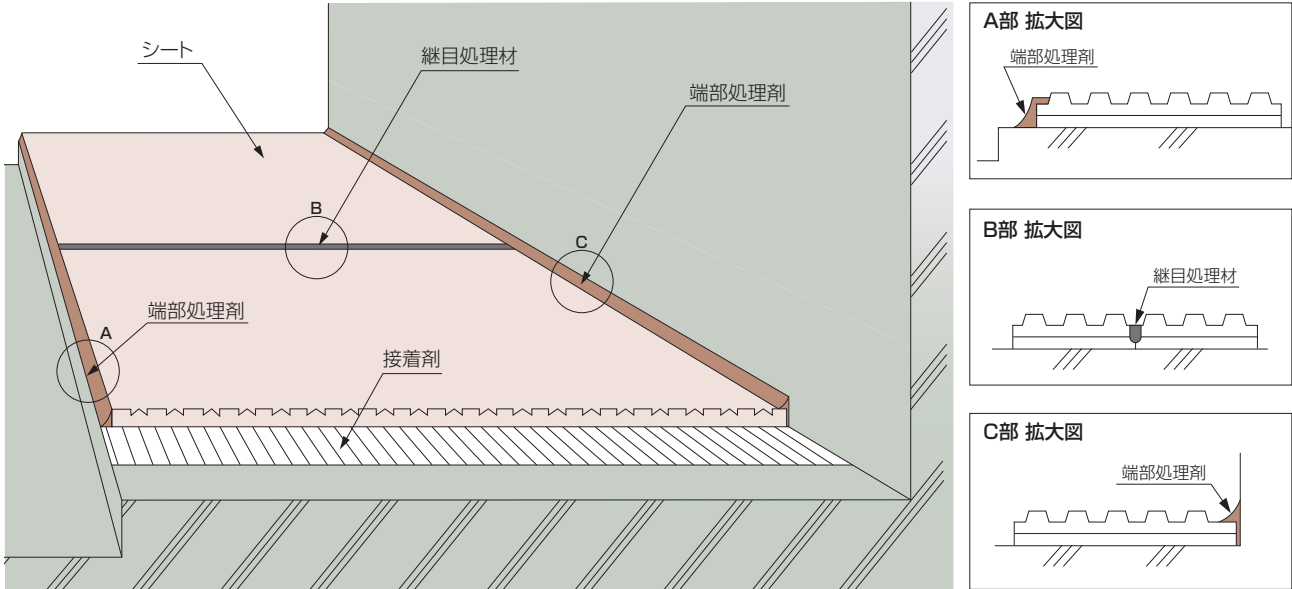


2.工法の確認

タキロンシーアイの床材製品は、過酷な屋外での使用にも耐えるすぐれた耐久性を持っています。タキロンシーアイでは、この特長を最大限に生かす優れた専用接着剤、副資材、工法を開発。独自の工法を確立し、数多くの実績をもっています。

標準納まり図



※標準納まり図は一例であり、実際の納まりとは異なる場合があります。

工法	用途	接着剤	継目処理材	端部処理材
一般工法	屋内など水を使用しない場所など	タキボンド#607 タキボンド#701	床溶接棒 タキシール#600	タキシール#600
耐水工法	直接雨がかりのない場所・湿気の恐れのある場所など	タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601	床溶接棒 タキシール#600 エポシール	タキシール#600 エポシール
特殊耐水工法	雨がかりがある場所・水を大量に使用する場所など	タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601	床溶接棒 エポシール	タキシール#600 エポシール
プールサイド工法	プールサイドなど特に大量に水を使用する場所など	タキボンド#601	床溶接棒 エポシール	エポシール
継目止水工法	プールサイドなど特に大量に水を使用する場所など (屋内プールサイド)	タキボンド#601	ジョイントシートS +タキボンド#620 +床溶接棒	エポシール
テープ工法	縞鋼板下地、押出成形セメント板下地など	専用両面テープ + 専用プライマー	詳しくは P.244,P.247 をご覧ください	詳しくは P.244,P.247 をご覧ください
床暖房工法	床暖房下地にタキストロンを施工する場合 (コンクリート内埋設タイプ) (パネルヒータータイプ)	タキボンド#601	床溶接棒	エポシール

継目処理

溶接工法

床材の継目部は隙間なく仕上げ、U字型に溝を切り、タキストロン床溶接棒を熱風溶接機を用い、溶融しながら断面を熱風溶接します。

端部処理

シール工法

排水溝、壁際などの端部からの水の浸入を防止し、床材のめくれ、剥がれを防ぐために、耐水性にすぐれたタキシール#600・エポシールなどで端部処理を行います。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・
副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335

製品別選定表 (1)

< 共通注意事項 >

- 記載内容以外の工法での施工トラブルは原因説明ができませんのでご注意ください。
- 継目処理にシールを使用する場合は養生(2~3日)させ完全に硬化するまで触ったり踏まれないようにしてください。
(硬化後の仕上がり面は多少やせが生じます)
- 下地の種類によっては本来の接着強度が発揮できない場合がありますので、営業担当者にお問い合わせください。(事前の接着テストをおすすめいたします。)
- 下地が塗膜防水材や塗り床などの場合は、種類によって副資材の選定が異なります。営業担当者にお問い合わせください。
- 鋼板製の下地については十分な防錆処理(ケレン・錆止め・上塗り)を施してください。種類によっては接着しないことがありますのでお問い合わせください。
- ステップと同梱しているタキボンド#650は凹凸の少ない標準的な下地を想定した数量を付属しています。不足する場合は別売品を追加購入してください。
- 製品を5℃以下で保管・施工・養生しないでください。(冬期などは特にご注意ください。)
- 5℃以下になると製品の品質が変化したり、接着剤やシール材の硬化不良、接着力低下、テープの粘着力低下などの不具合が起こることがあります。
- ナイスレシートの使用可否については、ナイスレシート施工手順をご覧ください。

タキストロン

(ZA・NA・RA・FH・HA・QA・BA・SA・PRENTO・MR・WB・LX・LB・プラスケアPGE・SL)

マンション用

廊下・踊り場用シート

スリップレール・ドレーンレールL・ドレーンレールH・ドレーンレールプラス・点字タイル

→施工手順
P.257

→施工手順
P.259

→施工手順
P.279

→施工手順
P.283

工法	用途	下地		接着剤	継目処理材	端部処理材
耐水工法	雨がかりが少ない場所 (屋根のある廊下・バルコニー)	非吸水	全面塗膜防水	タキボンド #607・701・601	床溶接棒 タキシール#600	タキシール#600
		吸水	モルタル 端部塗膜防水			
特殊耐水工法	完全屋外 (屋根のない廊下・バルコニー)	非吸水	全面塗膜防水	タキボンド #607・701・601	床溶接棒 タキシール#600	タキシール#600
		吸水	モルタル	タキボンド#601	床溶接棒 タキシール#600 + タキボンド#625	タキシール#600 + タキボンド#625
		非吸水	全面塗膜防水	タキボンド #607・701・601	床溶接棒 タキシール#600	タキシール#600
		吸水	モルタル	タキボンド #607・701・601	床溶接棒 タキシール#600 + タキボンド#625	タキシール#600 + タキボンド#625
完全屋外 (ルーフトバルコニー・屋上など 下に居住空間がある場所)	非吸水	全面塗膜防水	タキボンド #607・701・601	床溶接棒 タキシール#600	タキシール#600	
	吸水	モルタル	タキボンド#601	床溶接棒 タキシール#600 + タキボンド#625	タキシール#600 + タキボンド#625	

- 塗膜防水材下地にタキボンド#601を使用する場合、トップコートの種類によっては接着しないことがあります。営業担当者にお問い合わせください。
- 廊下や踊り場などにタキストロンプラスケアを使用する場合、階段の最上段はプラスケア専用のコネクタステップをご使用ください。
- 完全屋外の吸水性下地にタキシール#600を使用する場合は、必ずプライマー タキボンド#625(別売品)で前処理を行ってください。
- 水の勾配は1/100以下で平滑に仕上げてください。

タキストロン(ZA・NA・RA・FH・HA・QA・BA・SA・PRENTO・MR・WB・LX・LB) 廊下・踊り場用シート

+

ナイスレシート(NL-030) または ナイスレシート45(NF-050)

→施工手順
P.287

工法	用途	下地		接着剤	継目処理材	端部処理材
耐水工法	雨がかりが少ない場所 (屋根のある廊下・バルコニー)	非吸水	全面塗膜防水	タキボンド #607・701・601	床溶接棒*1 タキシール#600	タキシール#600
		吸水	モルタル 端部塗膜防水			
特殊耐水工法	完全屋外 (屋根のない廊下・バルコニー)	非吸水	全面塗膜防水	タキボンド #607・701・601	タキシール#600	タキシール#600
		吸水	モルタル	タキボンド#601	タキシール#600 + タキボンド#625	タキシール#600 + タキボンド#625
		非吸水	全面塗膜防水	タキボンド #607・701・601	タキシール#600	タキシール#600
		吸水	モルタル	タキボンド #607・701・601	タキシール#600 + タキボンド#625	タキシール#600 + タキボンド#625
完全屋外 (ルーフトバルコニー・屋上など 下に居住空間がある場所)	非吸水	全面塗膜防水	タキボンド #607・701・601	タキシール#600	タキシール#600	
	吸水	モルタル	タキボンド#601	タキシール#600 + タキボンド#625	タキシール#600 + タキボンド#625	

- 塗膜防水材下地にタキボンド#601を使用する場合、トップコートの種類によっては接着しないことがあります。営業担当者にお問い合わせください。
- 廊下や踊り場などにタキストロンプラスケアを使用する場合、階段の最上段はプラスケア専用のコネクタステップをご使用ください。
- 完全屋外の吸水性下地にタキシール#600を使用する場合は、必ずプライマー タキボンド#625(別売品)で前処理を行ってください。
- *1 ナイスレシート45(NF-050)との二重張りの場合、床溶接棒は使用できませんのでタキシール#600で処理してください。
- 下記とナイスレシート(NL-030)、ナイスレシート45(NF-050)との二重張りは出来ません。
プラスケアPGE・SL・ドレーンレール(全て)・面台ガードC・NSマット・T-EVマット・ベンチレシート

試験データ	P.203
法規関連	P.226
工法・下地	P.236
施工手順	P.255
接着剤・副資材	P.315
副資材品番一覧	P.330
メンテナンス注意	P.335

タキストロン施工方法

マンション用

ZA・NA・RA・FH・HA・QA・BA・SA・PRE・MR・WB・LX・LB・プラスケアPGE

幼児施設用

プラスケアCG

プールサイド用

MX・MT・ST・プラスケアMG



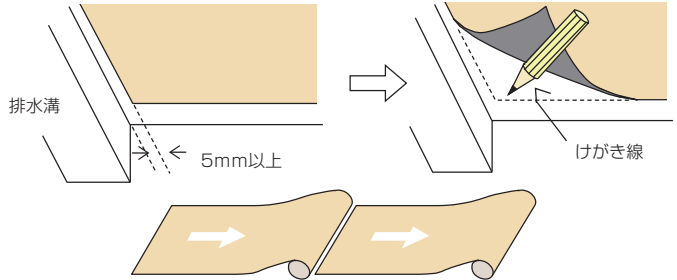
下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。
 使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

1. 下地・使用環境の確認

- 下地の清掃を行い、砂・塵埃などを除去してください。
- 下地の表面が平滑で十分な強度があること、塗料や油分などの汚れが残っていないことを確認してください。
- 下地に湿気がある場合は十分に乾燥するまで養生してください。(必要に応じて下地の水分率を確認してください。)
- **施工開始から養生終了までの間に気温が5℃以下になる場合や、急激な温度変化や水濡れがある場合は施工できません。**

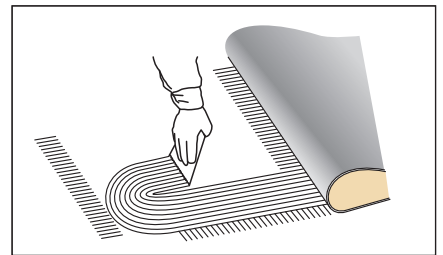
2. 割り付け

- できるだけ継目部を少なく、端部に小さなシートが入らないように割り付けてください。
- 端部は端部処理材の仕上げ代として排水溝端部から5mm以上、壁際は3mm程度の間隙を開けてください。
- 接着剤を端部まで塗布するため、シート端部の位置を下地に鉛筆などでけがいてください。



3. 仮敷き

- 張り付け基準線に沿って、仮敷きを行ってください。
- **シートには方向性があります。同一方向になるように施工してください。**
- 巻きグセを取り、シワが生じないように敷き延ばしてください。
- 柄模様のあるシートは、できるだけ柄合わせを行いながら、シートを敷いてください。
- 二枚のシートの継目部は突き付けとし、隙間が生じないように注意してください。
- 継目は柄模様の目地部で行うのが基本です。



4. 接着剤の塗布準備

- 下地に接着剤を塗布するため、タキストロンの半分(巾方向)をずれないように折り返してください。

5. 接着剤の塗布

- エポキシ系接着剤の場合、接着剤は下地上での混合は行わないで別容器で十分に攪拌してください。
(下地上で混合すると混合不良となり後日のフクレ・接着不良の原因となります。)
- 下地に塗布ムラが生じないように均一に塗布してください。

標準塗布量	モルタル下地:300~400g/m ² 非吸水性下地:250~350g/m ²
-------	--

- クシ山が1/3以上摩耗した場合、三角ヤスリで目立てを行ってください。

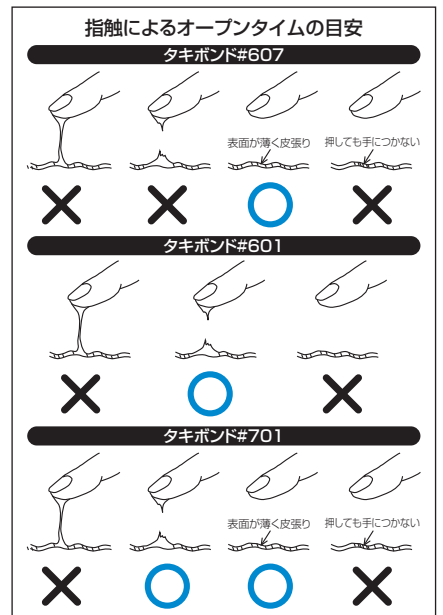
6. オープンタイム

- 接着剤を塗布した後オープンタイムを取り、張り付け可能時間内にシートを張り付けてください。
- オープンタイムが短いとガス膨れが生じます。
- **オープンタイムを取り過ぎて接着剤が乾きすぎると接着力が低下します。**

オープンタイムの目安(20℃)

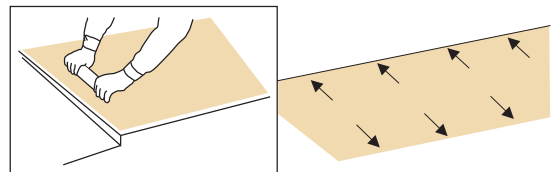
接着剤	オープンタイム	張り付け可能時間
タキボンド#607	20~30分	40~50分
タキボンド#701	30~40分	50~70分
タキボンド#601	30~40分	60~70分

※5℃以下では使用しないでください。(硬化反応が進みません)



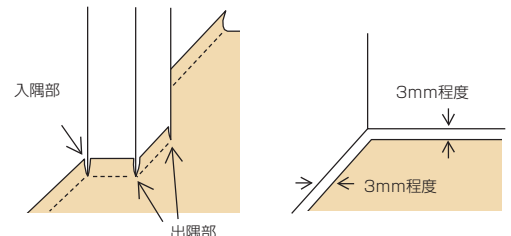
7. 張り付け・エア抜き

- シートにシワを生じさせないように、中央部から巾方向に丁寧にシートを張り付けてください。
- シート張り付け後、しごき圧着でエア抜きを十分に行った後、床ローラーや、しごき棒などで圧着してください。



8. 壁際の裁断

- 壁際は3mm程度の間隙が空くように裁断してください。
- 下地に防水層がある場合は、カッターナイフ等で傷を付けないように注意してください。



9. 圧着

- 壁際及び継目部をハンドローラーやコーナーローラーで十分に圧着してください。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・
副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335

10.養生(1~2日)

- 接着剤が硬化するまで1~2日養生させてから、次工程の処理を行ってください。
- 接着剤が硬化するまで、気温が5℃以下にならないようにしてください。(5℃以下では硬化しないため)
また、急激な温度変化や水濡れがないようにしてください。
- 接着剤が硬化するまで、重量物の運搬やカスター椅子などによる「しごき」を避けてください。

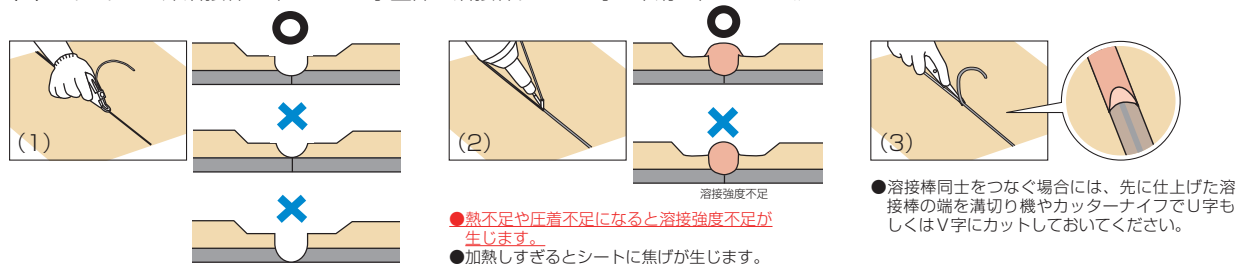
11. 継目処理

溶接工法

- (1)接着剤が完全に硬化してから溝切り機*等でシート厚みの2/3程度の深さでU字溝を設けてください。
※推奨:ヤヨイ化学販売(株)「ユーキリスーパー」
- (2)熱風溶接機(ライスター)でタキストロン床溶接棒を溶融させながら溶接ビードができる程度に溶接してください。

溶接条件の目安	設定	アナログ	6~7
			デジタル
	スピード	1~2m/分	

- (3)タキストロン床溶接棒が冷えてから余盛部を溶接棒トリマー等で平滑に仕上げてください。



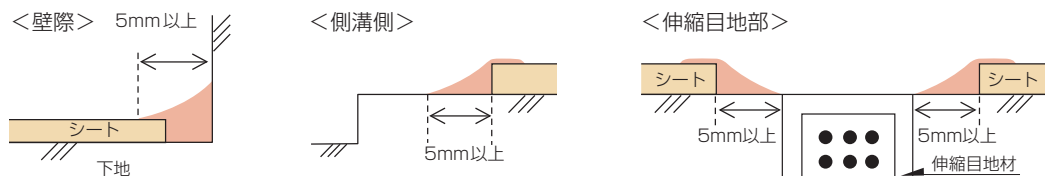
シール工法

パルコニーなどで養生が可能な場合は、11.端部処理と同様の手順でタキシール#600を使用することも可能です。但し、以下につきまして十分に注意してください。

- ※養生期間を2~3日間設けてください。
- ※タキシール#600の仕上がり面は、硬化後多少の痩せが生じます。

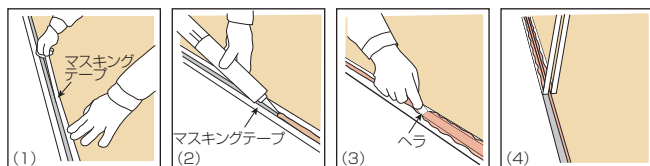
12. 端部処理

- (1)仕上がり美しくするためにマスキングテープで養生してください。
- (2)気泡を巻き込まないようにシート端部及び壁際に塗布してください。
- (3)充填後直ちに仕上げ用ヘラで平滑に仕上げてください。
- (4)ヘラ仕上げ後直ちにマスキングテープを除去してください。



※伸縮目地がある場合は目地手前で端部処理を仕上げ、目地を露出させてください。(伸縮目地上にシールを打設すると、シールにひび割れが発生する恐れがあります。)

- ※シールの仕上がり面は、硬化後多少の痩せが生じます。
- ※施工時や養生中に湿度の高い場合や、結露、水滴などにより、シール表面の光沢に差が生じることがありますが、端部処理としての機能に問題はありません。施工日が異なる場合は打継ぎ箇所を目立たない所にするなどご注意ください。
- ※エポシールは主剤、硬化剤、カラーマスターの混合が必要です。同梱の取扱説明書を参照してください。



施工副資材 標準使用量(タキストロン)

シート厚さ	タキシール#600	エポシール
3mm未満	20m/本	60m/2kgセット
3~4mm (プラスケア※)	上記の約1.2~1.5倍 13~16m/本	40~48m/2kgセット

※4mm以上の場合はお問い合わせください。

13. 清掃

- シート残材・接着剤容器・梱包紙等を片付けてください。
- カッターナイフの折れ刃の回収を徹底してください。

14. 養生(2~3日)

- シール材が硬化するまで、2~3日養生させてください。
- シール材が硬化するまで、気温が5℃以下にならないようにしてください。(5℃以下では硬化しないため)
また、急激な温度変化や水濡れがないようにしてください。
- シール材が硬化するまで、触ったり踏んだりしないようにしてください。(継目にシール材を使用する場合は特にご注意ください。)
- 養生中は土足での歩行を控え、汚さないようにしてください。(必要に応じて養生シートなどをご使用ください。)
- 屋内で使用する場合に換気を行い、引き渡しまでに数日期間を設ける等の配慮をしてください。
- 重量物の運搬などは、接着剤やシール材が硬化した後、ベニヤ板などを敷いて車輪の跡形や傷を付けないように行ってください。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・
副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335